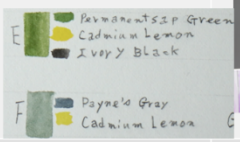
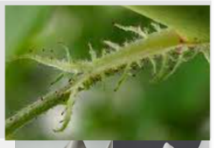
植物画制作の際に「守っていただきたい手順」　　202211 skoike

描画に先立ち、実施していただきたい作業について確認します。

手順	やってほしい作業	どんな効果があるか	行わないと	
１点投光でのハイライトと陰の確認	左上に固定した白色光を投光。	１点投光によりハイライト、陰の特定が容易になる。 投光を的確にすれば、陰影のメリハリが出て、立体感を演出しやすくなる。	絵の立体感が乏しくなる。	
現物の色を確認する	①現物にカラーチャートを当ててハイライトの色、ベースカラーの色を特定する。 ②試し紙に色を再現し記録しておく。	色のトーンを的確に決めることができる。 色のバリエーションが得られる。	色相、トーンが貧相になる。	
写真による細部の記録	植物の種の特徴を示す部分を拡大して撮影する。 脈や葉や茎の接続部も撮影。 切断面、分解部分の撮影も。	種の特徴を正確に描画できる。	空想画になる。	
写真撮影時の背景色	薄い色の花の場合は背景を白に、薄くない花や葉の場合は背景を黒にして撮影する。	薄い色の花の細部を写し易い。 薄くない花や葉の細部を写し易い。	ハレーションし、細部を描く場合の記録として使えない。	

1.　1点投光による固定されたハイライトと陰の確認

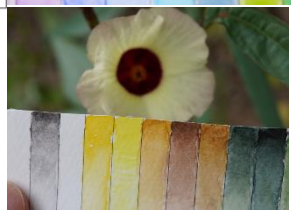
植物画は陰を追い求める作業の連続である。

・1点投光によりハイライト、陰の特定が容易になる。
・投光を的確にすれば、陰影のメリハリが出る。
・陰付けの悩みが減る。
・立体感を演出しやすくなる。

・左上に固定した白色光を投光する。
・LEDでも十分OK。
・光が強すぎるハロゲンランプは明るすぎてハレーションがおきる。
・窓からの太陽光は、太陽の移動に伴い陰とハイライトの位置が変化するので好ましくない。

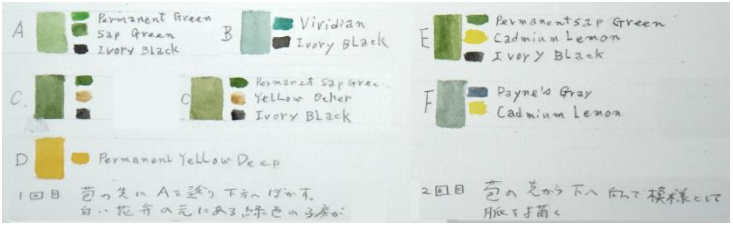
2. 現物の色を確認する：使う絵具を決める

・薄い色のカラーチャートを使い、一番近いハイライトの色味を決める。
・微妙なセンスを要するので慣れて下さい。
・濃い色のカラーチャートを使い、一番近い絵具を選ぶ。
・次に、右方向に調整するか、左方向に調整するかを決め、混色量を加減し、ベースカラーの色味を確認する。

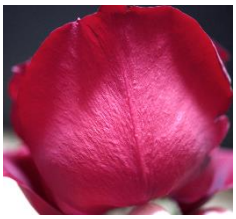


3.　現物の色を確認する：色のレシピを作る

現物のラフスケッチをし、現物の色を確認しながら色味を作り、色のレシピを記録しておく。



4.　写真を利用して細部を記録する



5.　薄い色の花の写真撮影時の背景色

薄い色の花の場合は背景を白にして撮影する。
薄い色の花の細部を写し易く、細部描画の参考になる。
背景が暗いとハレーションして細部記録として使えない。

6.　薄くない花や葉の写真撮影時の背景色

薄くない花や葉の場合は背景を黒にして撮影する。
花や葉の細部を写し易い。